

宮城学院女子大学に対する改善報告書検討結果

＜大学評価実施年度：2018（平成30）年度＞

＜改善報告書検討実施年度：2022（令和4）年度＞

宮城学院女子大学から改善報告書の提出を受け、本協会は改善に向けた大学全体の取り組み、8点の改善課題及び2点の是正勧告の改善状況について検討を行った。その結果は、以下のとおりである。

＜改善に向けた大学全体の取り組み＞

大学評価の結果を受け、2019（令和元）年6月の「学長連絡会議」において指摘事項の内容を確認し、学長から各部局に対して改善計画及び方針の策定の指示を行った。各部局から示された改善計画及び方針は、「学長連絡会議」がその妥当性について確認・検討し、改善に向けた取り組みに着手している。また、全学的視点からの学部・学科編成の検討を目的とする「大学改革検討委員会」においても、大学評価結果で指摘を受けた定員管理や学位授与方針、教育課程の編成・実施方針の課題に対して改善を進めている。さらに、中期計画にも認証評価の結果を踏まえた改善・向上のための計画を盛り込むことで、組織的に改善を図る体制を構築している。2020（令和2）年度には、「三役会議」と「学長戦略室」の構成員で構成する「自己点検運営委員会」を中心とした新たな内部質保証体制を構築し、全学的な課題に対して点検・評価を行い改善・向上に努めている。以上のように、課題に対し全学で取り組むことで、改善が進んでいる事項がある一方、学部の定員管理等については改善の成果が不十分な問題もあるため、引き続きの取り組みが求められる。

＜改善課題、是正勧告の改善状況＞

提言の改善状況から、改善の成果が十分に表れているとはいいがたい。

是正勧告については、学士課程の学生の受け入れにおける定員管理の問題は、定員未充足の一部の学科において引き続き是正を図る必要がある。

改善課題については、単位の実質化の問題、学習成果の把握の問題及び修士課程の学生の受け入れにおける定員管理の問題は、今後もさらなる改善に努めることが求められる。

個別の提言に対する改善に向けた大学の取り組み及びそれに対する評価は、以下のとおりである。なお、前回の大学評価時には指摘対象となっていなかった事項について、今回の改善報告書提出時には提言に相当する問題が生じているため、検討所見を参照し、次回の大学評価に向けて改善に取り組むことが求められる。

1. 是正勧告

No.	種 別	内 容
1	基準	基準2 内部質保証

宮城学院女子大学

<p>提言（全文）</p>	<p>点検・評価に関する全学的組織は設置しているものの、内部質保証に関する方針及び手続を明文化しておらず、特に点検・評価の結果に基づく改善・向上に向けた取組みにおける各組織の権限・役割が明確ではない。また、「宮城学院女子大学自己点検・評価規程」では、各学部・研究科、部署等が実施した点検・評価の結果をもとに、「自己点検運営委員会」が改善を必要とする事項を確認し、教授会に報告して改善を図るとしているが、同規程の定めと異なる体制で改善が進められている。その改善についても、教育に関する問題点が多く見受けられるなど、各学部・研究科、部署等の点検・評価の結果を適切に踏まえたものとは認められない。今後は、内部質保証に関わる各組織の権限・役割を明示し、自己点検・評価を実質化させ、その結果に基づいた改善支援が図れる体制を整備するよう是正されたい。</p>
<p>検討所見</p>	<p>内部質保証体制を整備するため、「宮城学院女子大学自己点検・評価規程」の改訂を行い、「自己点検運営委員会」の構成員を、点検・評価を行う「三役会議」と、改善点や改善案を提言する「学長戦略室」とするとともに、新たに「宮城学院女子大学 内部質保証の方針および手続き」を策定し、内部質保証に関わる主要な会議体の権限・役割を明確にしている。</p> <p>「自己点検運営委員会」は、2020（令和2）年度から、規程に基づき、各部局の年次報告書を取りまとめ、「自己点検・評価報告」を教授会に報告し、各部局は「大学中期計画」のもとでの計画と「自己点検・評価報告書」を踏まえて活動を行っていることから、適切な点検・評価の結果をもとに、概ね改善に向けた取組みが行われており、改善が認められる。</p> <p>なお、「自己点検・評価規程」の改定と「内部質保証の方針および手続き」については、大学評価後から現在に至るまで、段階を踏んで改訂が行われているが、今後は、内部質保証システムの適切性についても、定期的に組織的な点検・評価に取り組み、P</p>

宮城学院女子大学

No.	種 別	内 容
		DCAサイクルを機能させることが期待される。
2	基準	基準5 学生の受け入れ
	提言（全文）	学芸学部人間文化学科及び同音楽科において、過去5年間の入学定員に対する入学者数比率の平均がそれぞれ0.74、0.73と低い。また、収容定員に対する在籍学生数比率が0.73、0.79と低いため、学部の定員管理を徹底するよう、是正されたい。
	検討所見	<p>学芸学部人間文化学科では、過去5年間の入学定員に対する入学者数比率の平均及び収容定員に対する在籍学生数比率のいずれについても、改善が認められる。</p> <p>一方、学芸学部音楽科では、過去5年間の入学定員に対する入学者数比率の平均が0.75、収容定員に対する在籍学生数比率が0.76といずれも低くなっており、学部の定員管理を徹底するよう是正されたい。</p> <p>なお、学芸学部心理行動科学科では、大学評価時は改善課題ではなかったものの、収容定員に対する在籍学生数比率が1.21と高くなっていることから、併せて是正されたい。</p> <p>上記のことから、学芸学部音楽科の定員管理については、次回大学評価の際に改善状況を再度報告されたい。</p>

2. 改善課題

No.	種 別	内 容
1	基準	基準4 教育課程・学習成果
	提言（全文）	人文科学研究科英語・英米文学専攻、日本語・日本文学専攻及び人間文化学専攻の学位授与方針に、修得すべき知識、技能、能力など当該学位にふさわしい学習成果を示していない。また、学部・学科の

宮城学院女子大学

		学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針では、全学の学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針で示している一般教育と専門教育の関連性についての言及に精粗があるため、改善が求められる。
	検討所見	<p>人文科学研究科英語・英米文学専攻、同日本語・日本文学専攻及び同人間文化学専攻の新たな学位授与方針は、学位ごとに設定され、修得すべき知識、技能、能力など、それぞれの学位にふさわしい学習成果を示しており、改善が認められる。</p> <p>また、学部・学科の学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針では、全学の学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針で示している一般教育と専門教育の関連性について、全学部・学科で概ね統一されており、改善が認められる。</p>
No.	種 別	内 容
2	基準	基準4 教育課程・学習成果
	提言（全文）	大学院のシラバスに精粗が見られ、「教務部委員会」等による確認が十分に機能しているとはいえないため、改善が求められる。
	検討所見	大学院のシラバス点検について、各教員が作成したシラバスを専攻主任が確認し、さらに研究科長に報告するという体制に改めるとともに、「教務部委員会」が、シラバスモデルの見直しを毎年行うなど、シラバスの精粗を解消する仕組みを構築しており、改善が認められる。
No.	種 別	内 容
3	基準	基準4 教育課程・学習成果
	提言（全文）	単位の実質化を図る措置として、1年間に履修登録できる単位数の上限設定が行われているものの、免許や資格関係の科目等についてはその上限を超えて履修登録することを認めており、相当数の学生が上限を超えていることから、実質上、制度が機能

宮城学院女子大学

		<p>しているとはいえない。加えて、シラバスにおける授業の予習・復習等の指定を行っているが、単位の実質化を図る措置としては十分ではない。これらのことから、単位制度の趣旨に照らして改善が求められる。</p>
	検討所見	<p>教育学部教育学科幼児教育専攻及び健康教育専攻、並びに生活科学部食品栄養学科においては、履修登録の上限から除外していた教職課程や資格関連科目など一部の科目のうち、卒業単位に含む科目を履修登録上限数に含めることにより、上限を超えて履修登録する学生の数が大幅に減少している。</p> <p>また、学習支援やシラバスへの記載方法の見直しを行うなど、単位の実質化を図るための取り組みを行っている。</p> <p>しかしながら、成績優秀者に対する上限緩和措置を設定しており、いずれの学部においても、大多数の学生が対象となっているため、今後、成績優秀者の基準を見直すことが望まれる。</p>
No.	種 別	内 容
4	基準	基準4 教育課程・学習成果
	提言（全文）	<p>一部の学部・研究科において学習成果を把握するために、TOEIC®の成績、アセスメント・テストの実施、学位論文の審査等を行っているものの、学位授与方針に明示した学習成果の把握・評価については検討の段階にあり、十分に行われていないため改善が求められる。</p>
	検討所見	<p>学位授与方針に明示した学習成果の把握・評価のために、カリキュラムマップ・カリキュラムツリーの作成を行うとともに、ルーブリック作成に取り組んでいる。</p> <p>大学院においては、人文科学研究科、健康栄養学研究科ともに、修士論文の審査を通じて学習成果を把握するとしており、加えて、人文科学研究科では、修論研究計画の提出及び修論中間報告、健康栄養学</p>

宮城学院女子大学

		<p>研究科では、栄養教諭の専修免許状授与の所要資格要件の修得状況の把握によって、学習成果を評価するとしている。</p> <p>以上のことから、学部においては、学位授与方針とカリキュラム・授業科目の関係性を可視化し、学位授与方針に示した知識・能力・態度等の修得について、把握・評価に取り組む方針、指標を決定しているが、大学院における学習成果の測定は、統一的な指針にもとづいて実施しているわけではなく、また、学習成果の把握に関する各種方法と学位授与方針の内容の連関性が不明瞭であり、学位授与方針に示した学習成果を把握・評価する取り組みとしては十分とはいえない。</p>
No.	種 別	内 容
5	基準	基準5 学生の受け入れ
	提言（全文）	収容定員に対する在籍学生数比率について、人文科学研究科修士課程で0.34と低いため、大学院の定員管理を徹底するよう、改善が求められる。
	検討所見	収容定員に対する在籍学生数比率について、人文科学研究科修士課程における収容定員に対する在籍学生数比率が0.22と悪化しているため、大学院の定員管理を徹底するよう改善が求められる。
No.	種 別	内 容
6	基準	基準6 教員・教員組織
	提言（全文）	大学院として、固有のFDが行われていないため、適切にこれを実施するよう、改善が求められる。
	検討所見	人文科学研究科において、大学院のFD計画のもと、2019（令和元）年度には、大学院に進学する学生の特徴と学部教育との関係をテーマとした研修会を開催している。2020（令和2）年度及び2021（令和3）年度には、研究科の教員と大学院学生合同で学部教育との接続、大学院生指導、今後の大学院教

宮城学院女子大学

		<p>育の課題等をテーマとしたFD研修を行っている。</p> <p>健康栄養学研究科においては、健康栄養学に関する講演など、年度ごとのテーマに沿ったFD研修会を開催し、最新の知見を学ぶとともに、学生教育の意見交換を行っている。</p> <p>以上のことから、いずれの研究科においても大学院として固有のFDを適切に実施しており、改善が認められる。</p>
No.	種 別	内 容
7	基準	基準8 教育研究等環境
	提言（全文）	<p>大学院学生に対して、研究倫理観の涵養を図る組織的な取組みが十分ではないため、改善が求められる。</p>
	検討所見	<p>人文科学研究科では、「人文科学研究科改革委員会」及び「専攻主任委員会」にて、研究倫理教育を人文科学研究科の大学院学生全員を対象とした「研究倫理学習プログラム」として実施することを決定し、2020（令和2）年度より実施している。</p> <p>健康栄養学研究科においては、必修科目「健康科学基礎講義」において、研究倫理教育を実施するとともに、研究倫理eラーニングの受講と修了証の提出を課している。</p> <p>以上のことから、研究倫理を順守するための必要な措置を組織的に講じ、適切に対応していると判断できる。</p>
No.	種 別	内 容
8	基準	基準10 （1）大学運営
	提言（全文）	<p>大学運営における学部長等の主要な役職と、「三役会議」「学長連絡会議」「学長戦略室」及び「教授会」等の主要な会議体について、その位置付け・役割・権限において規程と実態との間に齟齬が見られるなど、意思決定プロセスが必ずしも明確ではない。大学運営に関する方針を明確に定めたいと、</p>

宮城学院女子大学

		<p>大学運営組織に関わる関係規程を整備し、組織運営の適切性・透明性を示すとともに、各機関が責任をもってその役割を果たしていくよう、改善が求められる。</p>
	<p>検討所見</p>	<p>学長、副学長、学部長の役割並びに教授会その他、必要な組織及び会議については、学則をはじめとした各規程等で規定している。また、大学運営の体制整備を、内部質保証体制の整備と捉え、「宮城学院女子大学自己点検・評価規程」の改訂を行うことで、意思決定のプロセスを明確にしている。加えて、「自己点検運営委員会」の構成員を、点検・評価を行う「三役会議」と、改善点や改善案を提言する「学長戦略室」とするとともに、新たに「宮城学院女子大学 内部質保証の方針および手続き」を策定し、内部質保証に関わる主要な会議体の権限・役割を明確にしている。</p> <p>学長が大学運営を指揮するとした管理運営方針を定め、「大学運営の方針」として、ホームページで公開しており、学内構成員等への周知を図っている。</p> <p>以上のことから、大学運営に関する方針を定めるとともに、大学運営組織に関わる関係規定を整備しており、改善が認められる。</p>

◆ 再度報告を求める事項

是正勧告No.2 については次回の大学評価の際に改善状況を再度報告されたい。

以 上